



ナイターに飛び交ふ野次の刺せ殺せ

寿命秀次

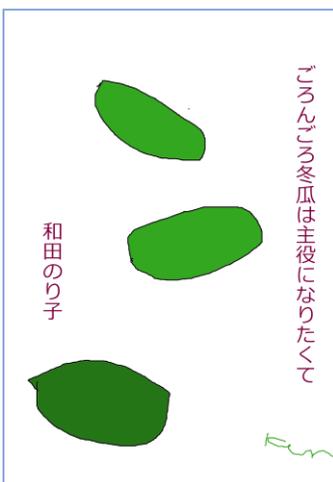
野球の用語は物騒だ。刺すは牽制球で走者を殺す。つまり走者は死ぬ。こんな野次が飛ぶのも平和があつてこそ。ナイターは夏の季語。



たうがらし色艶ともに勝気なる

西野周次

赤唐辛子も青唐辛子も艶々と光っているね。あれは自信の表れなのだろう。作者の感性で「勝気」ととらえ擬人化したことで面白い句になった。



ごろんごろ冬瓜は主役になりたくて

和田のり子

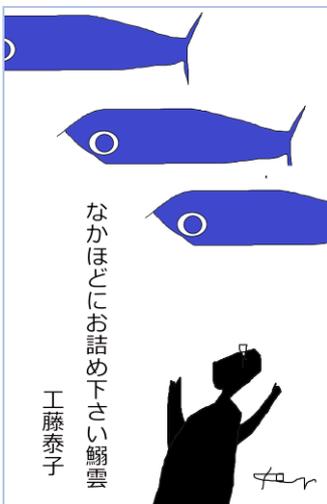
冬瓜は夏に収穫するが冬まで保存でき、季語としては秋に分類される。大きさの存在感はあっても個性的な味はないから主役にはなれない。



ひやとひの群れる淋しさ曼珠沙華

田中 勇

大勢の中において感じる孤独というものがある。華やかな花だがどこか寂しさの漂う曼珠沙華と、日雇い労働者の淋しさとが作者の中で重なった。



なかほどにお詰め下さい鯛雲

工藤泰子

電車の通勤ラッシュ時に聞く車掌さんの声かけ。鯛雲は整然としているが、等間隔になれとかもっと詰めろと指揮する役の雲がいるのだろう。



病むことを大いに語り敬老日

白井道義

老人会の話題は病歴自慢とそれを如何に克服したかという有益な体験談である。大いに語る機会を与えられた老人は手応えと嬉しさで一杯。